

氏名	中 西 紀 男
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1345 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和57年12月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学 位 論 文 題 目	高齡者白血病に関する研究 第1編 高齡者低形成型白血病（Hypoplastic Leukemia） に関する臨床的検討 第2編 高齡者白血病の予後因子に関する検討
論 文 審 査 委 員	教授 太田善介 教授 長島秀夫 教授 栗井通泰

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

高齡者白血病における病像解析とその至適臨床管理体系の確立を目的とし，高齡者低形成型急性骨髄性白血病（hypoplastic AML）の病像特異性並びに高齡者AMLの予後因子について検討を加えた。

第1編：高齡者AML 42例を対象とし，typical AML 25例，hypoplastic AML 17例の比較検討を行ったが，高齡者hypoplastic AMLでは診断時の発熱，出血傾向など理学的所見に乏しく，同時に高度の白血球減少，白血病細胞の低率な出現，比較的リンパ球増多，骨髄赤芽球の比較的増多，sideroblast Ⅲ型優位などが特徴と考えられ，本病態は高齡者AML全般に普遍化し得るものでなく，特異な病態とし臨床上把握されるものと考えられた。また高齡者hypoplastic AMLは生存期間の検討から smoldering acute leukemiaと関連を有することが示されたが，化学療法に対する反応はtypical AMLに比較し不良であった。

第2編：高齡者typical AML，高齡者hypoplastic AMLの予後因子について検討を加えた結果，typical AMLでは多剤併用療法で寛解に至った症例で生存期間の延長が認められた。また予後因子の検討では女性，有熱，白血球減少，血小板減少なかでも有熱が予後不良因子とし抽出された。一方高齡者hypoplastic AMLでは多剤併用療法による延命効果は認められず，予後因子の検討ではアウエル小体(+)，臓器腫大(+)なかでも臓器腫大(+)が予後不良因子とし抽出された。

以上，高齡者hypoplastic leukemiaは高齡者白血病の中でも特異な病態とし位置づけられ，高齡者白血病の至適治療法の確立と評価は，typical leukemia, hypo-

plastic leukemia という病態の特異性を基盤とした層別化においてなされる必要があり，typical leukemia においては，予後因子を考慮した支持療法の徹底と多剤併用療法により一層の予後改善が期待されるものと考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は高令者白血病の病像解析と予後因子の検討を多数の症例について行ったものであり，その臨床諸症状の特異性および化学療法の有効性について重要な知見を得ており，価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。